

平成27年度 児童養護施設 沖縄県立石嶺児童園 指定管理者 モニタリングシート

I. 履行確認

1. 維持管理業務

(1) 清掃

事業計画	実施主体		実施内容		整合性の検証	業務改善に向けた分析
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
<日常清掃>	○			現地確認 日常清掃は児童及び職員により日々実施されている。	適正	現地において確認したところ、適正に実施されていた。
<定期清掃>		○	全体清掃(月2回) 貯水槽清掃(年1回) (平成28年3月1日・16日)	実績報告書及び現地確認	適正	実績報告書及び現地確認により適正に処理されていた。ハブ対策として、自主的に雑木の伐採を行う等、児童の安全面を考慮した適切な対応が図られている。

(2) 保守・点検

事業計画	実施主体		実施内容		整合性の検証	業務改善に向けた分析
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
(電気設備点検)		○	毎月1回 (財)沖縄電気保安協会	実績報告書、契約書等により確認	適正	実施報告書等により、適正に処理されていた。
(井水水質点検)		○	隔月1回 (株)ビコー	実績報告書、契約書等により確認	適正	実施報告書等により、適正に処理されていた。給水塔の設備で改修が必要と思われる箇所については、適宜、小規模修繕で対応して欲しい。
(消防点検)		○	年2回(株)正太商事 平成27年8月26日 平成28年3月2日	消防点検報告書、契約書等により確認	適正	器具不良の指摘はあったものの、その後速やかに器具交換を行うなど適切に対処している。
(汚泥・廃油処理)		○	毎月1回 (有)沖縄クリーン工業	実績報告書、契約書等により確認	適正	実施報告書により、適切に処理されていた。

(3) 保安・警備

事業計画	実施主体		実施内容		整合性の検証	業務改善に向けた分析
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
業務委託による夜間の警備を実施する		○	毎日 17:00～8:30 常駐1名 沖縄埠頭警備保障	警備日誌、契約書等により確認	適正	警備日誌による日々の細かい報告に対して迅速に対応しており、保安に対する意識の高さが伺える。

(4) 小規模修繕(4月～3月)

事業計画	実施主体		実施内容		整合性の検証	業務改善に向けた分析
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
基本協定書第15条第2項に基づき80万円未満を小規模修繕として指定管理者で実施する	○		当初予算1,500千円に対して80件 ¥3,494,418 水道メーター取替、都市ガス配管取替、寮内電気設備修繕、水銀灯灯具取替、各寮スレエン修繕、消防設備修繕	契約書、実施報告書等により確認	適正	契約書や実施報告等の書類一式は揃っており、特段問題等は見受けられない。昨年指摘された日付や宛名漏れは改善が図られていた。

(5) 備品購入(4月～3月)

事業計画	実施主体		実施内容		整合性の検証	業務改善に向けた分析
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
基本協定書第18条第3項に基づき、県と協議を行ったうえで購入する	○		当初予算6,389千円に対して65件 ¥7,310,586 業務用冷蔵庫、新K式発達検査2001用具、乗用ロータリー(草刈り機)、厨房用天吊型空調機、ルームエアコン、	備品購入一覧表、納品書等で確認	概ね適正	概ね適正に処理されている。指定管理料以外の補助金で購入した備品は明確に区別して管理するよう注意して欲しい。また、廃棄処分に関しても、協定書に基づき適正な対応をお願いしたい。

(6) 防犯・防災対策(4月～3月)

事業計画	実施主体		実施内容		整合性の検証	業務改善に向けた分析
	指定管理者	委託業者	(事業報告書)	(現地確認)		
毎月の避難訓練の実施	○		避難訓練の実施(月1回) 総合避難訓練の実施(年1回)	実施報告書等で確認	概ね適正	適正に実施されている。不審者対策についても、運用委員会において実施状況を確認できた。

※維持管理業務については、必要に応じて項目を追加して記入してください。

2. 運營業務

(1) 利用実績

1) 入所児童(措置児童)

	定員	年度実績 (月末在籍平均)	検 証	分 析
入所児童数	90	83.7	適正	児童相談所からの依頼に適切に対応しており、高い入所率で推移している。

2) 入所児童(一時保護)

	定員	年度実績 (月別実人員平均)	検 証	分 析
入所児童数	—	1.3	適正	児童相談所からの依頼に適切に対応している。

(2) 帳簿等の整理状況

区 分	実施内容		検 証	分 析
	(事業報告書)	(現地確認)		
養護記録	/	/	○ 必要な帳簿等は作成され、適正に整理・保存・管理されているが、支出関係で連の会計書類が添付されていないものがあつた。	【養護記録、日報】 帳簿等を確認したところ、適正に管理されていた。
日報				【自立支援計画・家庭復帰等】 職業指導員はモデル的な配置でもあるため、面接内容や実施した行事等の実績は可能な限り詳細に残し、他施設の参考となるような活動記録となるよう努めていただきたい。
自立支援計画書				【心理関係・園内保育関係】 適切に作成され、管理・整理・保存されているが、面接の実施の頻度や、実施後の総括についても検討されることが望まれる。
心理関係				【給食関係】 細菌検査、予定及び実施献立表、給食日誌、検食簿について確認したところ適切に実施し帳簿等が整理されている。
家庭復帰関係				【支出関係について】 現金払いや緊急的な支払いにおいて、一連の会計書類に一部添付漏れが見受けられた。学校経費の集金等で領収書が徴収できない場合など、一般的な支払い手続きでは対応が困難な場合の帳票類の整理方法について検討して欲しい。
園内保育関係				
給食関係				
支出関係				

3. 行事等の実施状況

区分	実施内容		検証	分析
	(事業報告書)	(現地確認)		
園内会議関係	<p>養護会議・寮担当者会議(月2回)、全体職務会議・生活指導委員会・家庭支援ケース検討会議・心理療法ケース検討会議(月1回)、被虐待児個別対応ケース検討会議(隔月1回)給食委員会(年4回)を定例実施。児童カンファレンスは都度の実施の他、朝会等を活用して行い、リーダー会議も他の会議実施後に効率的に実施する等、会議数を抑さえ職員の負担軽減を図っている。各児童相談所主催の施設ケアを年2回実施。</p>	<p>○各帳簿等の作成、管理状況を確認 ○各種会議開催記録の整理状況を確認 ○各種記録の内容、決裁状況等を確認</p>	<p>○必要な帳簿等は作成され、適切に整理保存、管理されている。 (給食委員会) 平成27年度においては年間実施回数4回(5月、7月、10月、12月)</p>	<p>○必要な帳簿等は作成され、適切に整理保存、管理されている。 ○特に心理や個別対応職員等の専門職については、年度末など適当な時期に、取り組み内容を総括的に見直し、今後の活動計画に繋げるような会議の持ち方とすることについて検討いただきたい。 (給食委員会) お話箱の意見等の食生活に関する改善の検討が確認できない。 給食委員会等において、その改善に向けて検討し、記録を整理することが望ましい。</p>
園外会議関係	<p>園主催の学校との連携協議会(小学校年1回、中学校3回)を開催。要保護児童対策地域協議会4回参加、那覇市石嶺小学校区まちづくり協議会、首里ネットワーク会議、青少年健全育成協議会等には構成メンバーとして参加し、地域との連携を深めていった。</p>	<p>○各帳簿の作成、管理状況を確認 ○各種会議の開催状況、会議内容等を確認</p>	<p>○ 必要な帳簿等は作成され、概ね適正に整理保存、管理されている。</p>	<p>○ 必要な帳簿等は作成され、概ね適正に整理保存、管理されている。</p>
履行すべき行事	<p>避難訓練(月1回)、総合避難訓練(年1回)。残食調査(年2回)、嗜好調査(年1回)等を実施</p>	<p>○各帳簿等の作成、管理状況を確認 ○実施計画書、実施報告書等により実施状況を確認</p>	<p>○ 必要な帳簿等は作成され、概ね適正に整理保存、管理されている。</p>	<p>○適正に整理保存、管理され、実施内容も適正である。</p>
主な行事	<p>園外レク、球技大会、ビーチパーティー、年末レク、壮行会、野球観戦、チャレンジキャンプ等を実施。</p>	<p>○各帳簿等の作成、管理状況を確認 ○各種行事ごとに計画書、報告書等により実施状況を確認</p>	<p>○ 適正に整理保存、管理され実施内容も適当である。</p>	<p>○適正に整理保存、管理され、実施内容も適正である。</p>
職員研修	<p>県外研修へ13名の派遣、県内研修へ81名の派遣、園内研修を8回の実施。</p>		<p>○研修帳簿について適正に整理・保管されており、研修にかかる予算(旅費、研修費)も組んで計画的に対応している。 ○県外・県内研修への積極的な参加を実施しており、職種においても満遍なく研修に参加し、職員の資質向上に努めている。</p>	<p>○園内研修の実施、県内・県外研修派遣も積極的に行っており、職員の資質向上に努めている。 研修資料を全体に供覧するなど、参加しなかった他の職員にも研修内容の共有を図り、引き続き職員の資質向上に積極的に努めて欲しい。</p>

Ⅱ. サービスの質の評価

評価項目	指定管理者 自己評価	分析	評価・改善要望
維持管理業務 施設・設備管理	27年12月に都市ガスのガス漏れが発覚し即時に対応、改善した。今後は耐震化も含めた安全管理の点からも、当園における埋設ガス管等の調査、改修等を引き続き対応していく予定である。その他には、各寮、棟の老朽化に伴う、建具や電気設備等の摩耗および劣化、破損等を、単品毎や数カ所取りまとめ修繕した。	適正に実施している	・築20年(管理棟は30年)以上が経過しており、老朽化に伴う劣化が著しい施設ではあるが、児童の安全を最優先に考え適切に対応している。今後も全職員で危険箇所等を把握し、児童にとって安心・安全な住環境提供に努めて欲しい。
入所児童の生活指導	日課や規則等の見直しについては、生活指導委員会等で、適宜見直しを実施している。更に27年度は、看護師に直接寮に入ってもらい、児童に対して、歯磨き指導及び身体の洗いや入浴指導を、実施している。保清面に関しては、寮の美化チェックを毎月実施し、寮職員が他寮を評価する事で美化整備の基準を高め、児童支援に活かしている。	概ね適正に実施している	・今後も生活指導委員会等で子どもの意見を汲み取りながら、随時、日課、規則等を見直しを図るなど、引き続き子どもの安全・安心な生活の場の提供に取り組んで欲しい。また、性教育、ネット犯罪に関する教育もお願いしたい。 ・他寮の職員の評価を取り入れたり、職員研修等を通して、職員の質の向上を図り、児童支援に活かして欲しい。
入所児童の自立支援	27年度も高校生の中途退学は出なかった。自立支援については、新たに配置された職業指導員、FSWと連携し面談等を重ね、自立に向けた取組みを高校入学時より実施。その他児童に関しても、職業体験等を園独自で開拓し実施している中で意識している合同でのリービングケアについては、27年度は美さと児童園、島添の丘の3施設で実施し、昨年同様、外部講師の講義、実技指導で積極的な児童の姿が見られた。	概ね適正に実施している	・平成27年度に中途退学者が出なかったことや他の養護施設と連携しリービングケアについて計画的な取組が出来たことは評価出来る。 ・職業指導員を活用し、引き続き自立に向けた取組を行って欲しい。また、外部講師や他施設との連携によるリービングケアも継続して欲しい。
運営業務 児童相談所との連携	例年同様引き続き、連絡を密に、適宜状況報告を行い、連携を十分にはかるよう努めている。	概ね適正に実施している	・両児童相談所との連携は良好な状態で維持されている。
内部的な事務処理	・庶務班については、措置費支弁基準改正に伴い、給与規程や就業規則等の変更など、諸規程整備をした。小口現金出納帳も整備し対応している。 ・養護班に関しては、児童からの、おはなし箱に寄せられた意見を、真摯に受けとめ、その意見に沿って、各部署及び専門職で協議し、さらに、第三者委員会を開催し、指導を仰いでいる。	概ね適正に処理されている。	・種々の規程の整備やお話箱に寄せられた意見への対応方法の整理、各寮毎に児童への急な支出に対応できる小口現金担当者を置くなど、内部処理の効率化や適正化を図るために工夫を凝らして取り組んでいる。 ・会計事務に関しては、現金払い等において、支出処理の流れが一見して分かるよう、帳票類の整理方法に工夫を要する。
施設内虐待	平成26年度3月に発覚した児童指導員による虐待については、被害児童、寮職員の聞き取り面接の実施を始め、園内研修「感情のコントロール」や「心理的虐待防止について」の受講、平成27年度虐待防止事業の研修の受講、更に、施設全体でのアンケートを実施し現状の把握と人権擁護チェックリストの結果を踏まえた園長と養護班長による職員面接を全寮に渡り実施した。全体職務会に於て、「全国児童養護協議会倫理要領」の読み合わせや「児童養護施設運営ハンドブック」の再確認を実施継続している。	平成26年度3月に発覚した事案について、平成27年度に沖縄県社会福祉審議会児童福祉専門分科会審査部会に報告し、施設内虐待として判断された(1件)	・虐待に繋がりがかねない暴言や言葉の暴力といった問題を早い段階で組織的に対応し、施設全体で問題を共有し組織的な未然防止策を図り、被害児が加害に陥る等連鎖をさせないよう今後も継続して取り組んで欲しい。

行事等の実施状況	<p>行事等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年度ボランティアの方々による、臨床美術、絵本の読み聞かせ、料理教室、物作り体験など様々な形で実施して頂いた。琉舞に関しては、地域での披露や福祉施設での慰問も実施する事ができた。 ・昨年、改名した「いしみねチャレンジ子ども会」に於いては、子どもたちにミニ運動会を企画させ実施する事ができた。 ・職業指導員、個別対応職員によって中部トリムマラソン大会、あやはしトリムマラソン大会、海洋博トリムマラソン大会に職員と共に参加し達成感を味わえる経験の一つとなり、例年とは違う取組みが出来ている。 	工夫を凝らし適正に実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・文化面、スポーツ面等様々な分野にわたって子ども達に行事を企画させ、取り組ませたことにより、達成感や充実感を体験できる取り組みを行ったことは評価できる。今後ともこのような工夫を継続して欲しい。
	<p>職員研修</p> <p>県内外の研修に積極的に職員を派遣し、出来るだけ多くの職員が計画的に参加できるように努めた。園内研修では本村先生や竹沢先生の事例検討を実施、より現場に沿った形で研修となった。</p>	概ね適正に実施している	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職による勉強会を増やしていることは評価できる。 ・今後とも職員の資質向上のために、県内外の研修の計画的な実施に努めると共に、園全体で研修内容を共有できる仕組みを続けて欲しい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、地域との関係は良好に保たれ、いしみね地域福祉まつりだけでなく、首里旗頭やハーリー大会等の学校行事や地域行事に参加し、児童が首里石嶺地域の文化に触れあう機会も定着してきている。また多くのボランティア（読み聞かせ、臨床美術、琉舞等）の受け入れも継続し、当年度には、琉舞（ちゅらさん会）は、地域イベントや福祉施設へ慰問として参加し、社会参加の貴重な経験をした。また、外部団体等からのご招待等も充実し、工作教室や食育体験、離島キャンプ等の他に、さらに県外へのプロ野球観戦やミュージカル鑑賞など、児童の年齢や個性に合った体験ができた。 ・27年度は、措置費支弁基準改正に伴い給与規程や就業規則の改訂や、旅費・研修費等を充実し、職員の大幅な待遇改善を図る事が出来た。さらに、職業指導員や児童指導員および学習指導員を増員配置し、児童支援に厚みを持たせる事ができた。 ・事業費に関しても、児童処遇に直接関連する、教養娯楽費等を充実させ、部活動や学習派遣等へも積極的に支援した。環境整備は前年度から継続し、設備や備品等の修繕や買い換え等で、清潔感のある、安全な環境作りを目指し努めた。 ・全国社会福祉協議会、全国児童養護施設協議会から示された「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト(施設版、職員版)」や「福祉サービス第三者評価(自己評価)」を前年度に引き続き実施し、施設内虐待の防止等児童の権利擁護を図り、児童の最善の利益を念頭に確認し継続性を持って取り組んでいく事を再認識することができた。 	概ね適正に運用されている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の充実や自立支援の取り組みなど、年々改善が図られている。社会参加や招待が児童の負担にならないよう確認しながら、引き続き安定的な生活を基本とした支援を行って頂きたい。 ・措置費支弁基準の改正に伴い、職員の雇用環境も着実に改善が図られている。職員の待遇改善は離職発生を防止し、職員の長期継続勤務にも繋がる。児童養護は様々なスキルを持つ専門の職員が長期間携わることにより、退園後のケアも見据えた充実した支援が可能となる。今後とも、職員の待遇改善及び人的資源の充実により、厚みのある支援をお願いしたい。 ・老朽化に伴い施設の修繕箇所が増えてきているが、常に児童の安全を第一に考え、迅速に対処されている。児童居室のルームクーラー等の設備も全体的に買替えの時期となっているが、今後も所管課と密に調整を行いながら、適宜、対応して頂きたい。 ・個々の児童に対する支援や環境整備についても入所児童が愛され、望まれているという感覚を呼び覚ます大事な要素であり、児童の意見も参考に充実させて頂きたい。 ・人権擁護のチェックリストの活用及び第三者評価の実施により児童の権利擁護の適正な啓発に引き続き取り組んで頂きたい。 ・指定管理者制度に基づく管理運営も8年目を終え、児童養護に関する種々の支援については、施設全体で高い目的意識を持って適切な運営が行われている。今後も児童の最善の利益を念頭に取組んで頂きたい。

※評価項目については、施設の態様に応じて適宜設定してください。

Ⅲ. サービスの安定性評価

1. 事業収入

(1) 収入 (単位:円、%)

収入項目	事業計画		実績	対計画比 (%)	備考
	(当初)	(補正)			
指定管理料	256,728,000	297,832,000	291,901,644	113.7	事務:227,502,610 事業:64,399,034
一時保護委託費	0	405,000	769,460	#DIV/0!	
地域療育支援体制モデル事業	7,403,000	7,077,000	7,090,000	95.8	
経常経費寄付金収入	500,000	1,764,000	1,834,490	366.9	
受取利息配当金収入	2,000	4,000	4,819	241.0	
その他の収入	450,000	426,000	1,092,944	242.9	実習生受入研修費等
当該年度収入合計 (A)	265,083,000	307,508,000	302,693,357	114.2	

<業務改善に向けた分析>

指定管理料と他の補助金(地域療育支援体制モデル事業)、寄付金等、収入科目毎に別々の帳簿を設けて適正に管理されている。収入科目によって充当可能な支出課目が異なることから、執行管理には引き続き十分な注意を払って欲しい。

(2) 支出 (単位:円、%)

支出項目	事業計画		実績	対計画比 (%)	備考
	(当初)	(補正)			
人件費	171,499,000	179,329,000	179,289,498	104.5	
事業費	73,288,000	84,036,000	79,915,050	109.0	
給食費	25,626,000	25,726,000	25,719,979	100.4	
保健衛生費	950,000	1,100,000	982,834	103.5	
医療費	475,000	725,000	651,703	137.2	
被服費	2,500,000	2,500,000	2,203,470	88.1	
教養娯楽費	2,882,000	4,682,000	4,401,194	152.7	スポーツ用品、ユニフォーム購入、九州大会出場等
日用品費	845,000	995,000	705,197	83.5	
保育材料費	210,000	0	0	0.0	新会計基準による科目変更
本人支給金	5,610,000	5,010,000	4,389,676	78.2	
水道光熱費	12,150,000	11,150,000	10,903,708	89.7	
燃料費	210,000	210,000	74,412	35.4	
消耗器具備品費	4,100,000	10,400,000	9,871,501	240.8	電化製品、カーテン等買替・購入による補正
保険料	235,000	235,000	231,478	98.5	
賃借料	2,862,000	3,010,000	2,952,007	103.1	
教育指導費	13,310,000	14,310,000	13,653,577	102.6	
就職支度費	0	1,660,000	1,462,210		新会計基準科目による補正
車両費	1,198,000	2,198,000	1,682,957	140.5	新会計基準科目による補正
雑支出	125,000	125,000	29,147	23.3	
事務費	20,296,000	25,175,000	23,617,969	116.4	
福利厚生費	793,000	743,000	706,180	89.1	
職員被服費	359,000	659,000	644,610	179.6	新会計基準科目による補正
旅費交通費	500,000	1,268,000	1,247,149	249.4	新会計基準科目による補正
研修研究費	1,829,000	1,870,000	1,836,621	100.4	新会計基準科目による補正
事務消耗品費	2,289,000	4,589,000	4,360,848	190.5	事務用品備品買替・購入による補正
印刷製本費	450,000	165,000	140,530	31.2	
水道光熱費	1,808,000	1,086,000	1,068,784	59.1	
燃料費	0	12,000	5,994		
修繕費	1,500,000	3,800,000	3,494,418	233.0	スレエン・ガス配管・電気設備等修繕
通信運搬費	1,665,000	1,115,000	930,425	55.9	
会議費	20,000	20,000	10,417	52.1	
広報費	165,000	265,000	232,840	141.1	パンフレット代
業務委託費	4,488,000	4,418,000	4,173,840	93.0	
手数料	606,000	1,356,000	1,123,005	185.3	園内環境整備、廃棄物回収代
保険料	152,000	152,000	130,600	85.9	
賃借料	2,357,000	2,357,000	2,295,152	97.4	
租税公課	50,000	10,000	600	1.2	
保守料	718,000	908,000	892,553	124.3	新会計基準科目による補正
渉外費	20,000	0	0	0.0	
諸会費	182,000	182,000	173,500	95.3	
雑支出	345,000	200,000	149,903	43.5	
予備費	0	1,000,000	0		
当該年度支出合計 (B)	265,083,000	289,540,000	282,822,517	106.7	

当該年度収支差額(C)=(A-B)	0	17,968,000	19,870,840		
前年度末支払資金残高(D)	15,886,773	15,886,773	15,886,773	100.0	寄付金 4,223,382 指定管理料 11,663,391
当期末支払資金残高(E)=(C+D)	15,886,773	33,854,773	35,757,613	225.1	寄付金 3,664,148 指定管理料 32,093,465

<業務改善に向けた分析>

27年度は、措置費支弁改正に伴い、給与規定の改定や研修費増等により職員の参加等を充実させることが出来ている。さらに、職業指導員や学習指導員等の増員配置も実施できている。事業費に関しては、児童処遇に直接関連する教養娯楽費等を充実させ、部活動や学習派遣など、積極的に支援する事ができ、事務費に関しては、前年度からの継続として、設備や備品等の修繕や買替等で環境整備を整えることができています。

2. 経営分析指標

評価指標	事業計画(当初)(a)	事業計画(補正)(b)	実績(c)	対計画比(%)	備考
事業収支(収入(A)-支出(B))	0	17,968,000	19,870,840		
人件費比率(人件費/支出(B))	64.7	61.9	63.4	98.0	H26人件費比率(63.5)

<業務改善に向けた分析>

年度内に2度の措置支弁基準の改正があったことから、事業収支については、約2,000万円の黒字となつてはいるが、事業計画に対して、順調に執行できている。

※経営分析指標の評価の考え方

評価指標	計算方法	評価の考え方
事業収支	収入-支出	事業収支がマイナスの場合、継続性の面で課題となるため、県、指定管理者で協力して黒字化するための方策を協議する必要がある。
人件費比率	人件費/支出	支出の中で人件費が減らされ過ぎていないか、それにより効率が低下していないかを確認する。

3. その他の指標

評価指標	事業計画(当初)	事業計画(補正)	実績	対計画比(%)	備考
給食費対事業費支出割合(給食費/事業費支出)	35.0	30.6	32.2	100.4	
児童1人1日当たり給食費(給食費/(月末在籍平均児童数+月別一時保護実人員平均)/366) ※H27年度は閏年			827		H21:593円 H22:632円 H23:639円 H24:650円 H25:742円 H26:777円

<業務改善に向けた分析>

一昨年度から食材等の見直しを図り、一人あたりの給食費も年々増加している。今後も食育の観点から児童への給食には十分に配慮した計画を立てて欲しい。